

esplanade



FUKUOKA ART MUSEUM 福岡市美術館

esplanade [エスplanade]
SUMMER 2026 | NO.224

- 02 アートの処方箋
- 03 所蔵品紹介
- 04 トーベとムーミン展
ーとっておきのものを探しにー
- 06 Tune in! アートラジオ
- 08 展覧会のタネ
- 10 美術館スケジュール(7～9月)



内側 / 外側

作者名(生年)：デイヴィッド・ナッシュ・David NASH(1945-)

制作年：1984

技法・素材：木(ニレ)

サイズ：内側高 168.7、外側高 202.0(cm)

© David Nash. All rights reserved. DACS & JASPAR 2026 G4264

所蔵品紹介

窓を隔てて流れる、ふたつの時間

くり抜かれた木の「内側」と「外側」が、美術館の窓ガラスを挟んで置かれています。美術館という管理された内部と、気候変動の激しい外部の環境にこれらを設置することで、経年変化による「内側」と「外側」の外観に差が生まれ、そこから時間を感じることが出来ます。1984年に作家が来館し、レストランで食事をしながらコレクション展示棟を眺めるうちに、この作品の構想が生まれた⁽¹⁾。

デイヴィッド・ナッシュ(1945-)は、イギリス生まれの作家で、樹木や自然環境を利用して作品を制作しています。自ら樹木の生育地に赴き、樹木の形状・大きさ・時間だけでなく周辺環境を見て、時には現地で制作するほど、自然へのこだわりを徹底しています。本作も人里を遠く離れた奥日光で、ニレの倒木から作られたもので、樹木の本来の形状が活かされています。

完成後、美術館に設置してから40年以上経ち、「内側」と「外側」の形状や色、大きさにそれぞれ変化が起きました。「外側」の外観変化は特に目立ち、「内側」を^は嵌め込むことが困難な程に変形しました。しかし、形状を戻さない、そもそも「介入しない」という選択こそ、作品が作品として成立するために必要な考え方であるといえます。

【参考】

(1)後小路雅弘「所蔵品紹介その102『エスプラナード』51号、福岡市美術館 1989年、6ページ

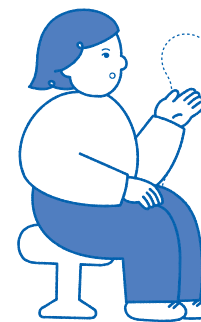
(2)デビッド・ナッシュ展「鎌倉画廊 1984年

(3)デイヴィッド・ナッシュ「樹のいのち、樹のかたち」栃木県立美術館 1984年

渡抜由季
(近現代美術係、作品保存管理担当)

アートの処方箋

汲めども尽きず湧いてくる、日々のちょっとした悩みごと。その悩み、ドクトル後藤に相談してみよう。



お悩み

人からどう見られているかが気になり、ついいい子を演じてしまいます。自分の本当の気持ちや、内なる情熱がどこにあるのか、分からなくなっていました。

優等生を演じがちなBさん(10代)



ドクトル後藤
[後藤恒 学芸課長]

わかります。わたしもそんな少年でしたし、アラフィフの今も同じです。家から一歩外に出たとたん、「模範的な社会人」を一所懸命に演じようとしちゃうもの。でもきつと多くの人がそうなのであり、だからこそ社会の秩序というものが保たれているようにも思います。「この世は舞台、人はみな役者」というシェイクスピアの名言を思い出します。もつともわたしは腹芸のできない大根役者ですから仕事仲間や関係者にけっこうな迷惑をかけているでしょうけど。

次ページに紹介されているデイヴィッド・ナッシュの

作品を処方します。福岡市美術館2階ロビー南側の窓ガラスの内と外に展示されていて、無料で鑑賞できます。まず外側の木を見てください。内側をくりぬかれ、長く外気にさらされて色あせ、変形した姿に、外でイイヒトを演じ続けることの辛さが重なって見えませんか？同時にそのことによって、内側の木の比較的に状態良好な姿が際立って見えてきてませんか？Bさんにとって「内なる情熱」のありかを思い出すきっかけになるとよいのですが。

お大事になさってください。

Highlight

みどころ

推し作品 1

口をすばめ、深く煙草を吸うトーベの自画像。目を細め、頬をほんのり赤く染めた表情は硬く、反抗的に見えます。第二次世界大戦中に描かれた油絵で、絵の中の冷めた眼差しは、不条理で悲惨な時代を皮肉に眺めているようです。この頃、トーベは、政治雑誌等で多くの反戦風刺画を描いていました。

「煙草を吸う娘(自画像)」
1940年 個人所蔵

©Tove Jansson Estate
Photo ©Finnish National Gallery / Yehia Eweis



© Per Olov Jansson

トーベ・ヤンソン
(1914-2001年)

フィンランド人の彫刻家の父とスウェーデン人の挿絵画家の母のもと、フィンランドのヘルシンキに生まれ、同地で逝去。

推し作品 2

記念写真のようにトーベを囲むムーミンたち。愛すべきキャラクターたちと一緒に画家は、深刻で批判的な表情をした自画像《煙草を吸う娘》とは違い、満足気に微笑んでいます。個性豊かな登場人物たちは、いまにも陽気なおしゃべりを始め、動き出しそうです。ムーミンたちは、トーベの性格を少しずつ与えられた彼女の分身でもあります。

「ムーミンたちと自画像」
1952年 ムーミンキャラクターズ社所蔵

©Moomin Characters™



推し作品 3

階段をかけあがるムーミンの仲間たち。陽気で愉快的な行進が描かれた本作は、アウロラ病院の小児病棟の階段壁画(1956年、ヘルシンキ市)のもとになったスケッチです。戦後の復興期、トーベは公共建築の壁画を多く手掛けました。アウロラ病院では、幼い患者たちをファンタジーの世界へ誘いながさめました。そこには、子どもたちがムーミンたちと楽しくはねる日が来ることを願うトーベの心が垣間見られます。



「遊び1〜3(アウロラ病院小児病棟の壁画のためのコンペティション用スケッチ)」1955年 ヘルシンキ市立美術館所蔵
©Moomin Characters™ Photo ©HAM / Hanna Rikkonen

※掲載されている作品はいずれもトーベ・ヤンソンによるものです。

TOVE
JANSSON
AND
THE MOOMINS

トーベと ムーミン展

ーとおきのものを探しにー

Info

会期：7月4日(土)～8月30日(日)

会場：2階 特別展示室

観覧料：一般1,900円(1,700円)

高大生1,000円(800円) 小中生600円(400円)

※()内は前売り、20名以上の団体料金



©Moomin Characters™

世界中でこよなく愛されているムーミンと仲間たち。個性豊かなキャラクターたちに私が出会ったのは、テレビで放映されたアニメにおいてでした。以来、ムーミンのモデルのことが気になっており、そのルーツが北欧の伝承に影響を受けていることを知ったのは、大人になってからです。

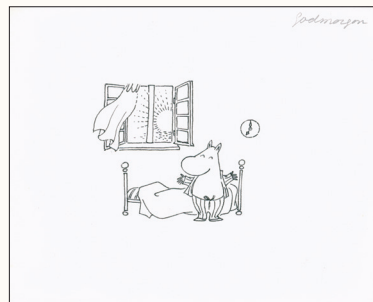
ムーミンのルーツはいくつあるそうです。ひとつは、10代のトーベが家のトイレの壁に描いた長い鼻の「スノーク」という名前の不思議な生きもの。もうひとつヒントになったのは、「ムーミントロール」というお化けの話です。トーベは、大きな鼻が特徴のスノークを原型に独自のムーミンを生み出しました。

幼い頃から絵画や彫刻に囲まれて育ったトーベは、画家を志してストックホルムとヘルシンキの美術学校で学び、パリに留学、1943年の初個展で画家として頭角を現します。しかし、画業の初期、世界は第二次世界大戦中であり、フィンランドはソ連やドイツとの戦火の中にありました。そうした不穏な時代にあつてトーベは、肖像画や風景画を描くかわら、政治雑誌『ガラム』に反戦風刺画を描き、1940年ごろには過酷な日常から逃れるように、「ムーミン谷」という安らぎの世界を創り出します。

終戦とともに小説『小さなトロールと大きな洪水』が出版されて以降、冒険に満ちたムーミンの世界は、小説、絵本、コミックス、舞台に展開し、世界中の人々に夢や希望をもつことや自然とともに生きること、家族や友人との絆を深めることなど、生きるうえで大切なことを伝えていきます。そこには、トーベの人や自然に対する温かな眼差しと深い洞察力を垣間見ることができます。展覧会では、多様に展開したムーミンの世界を中心に油彩画から公共建築の壁画制作まで、画家トーベの多彩な仕事を紹介しています。

とっておきのものを探しに、トーベとムーミンの世界の冒険に、ぜひお出かけください。

ラワンチャイケン寿子
(近現代美術係長)



「おはよう」
制作年不詳 ムーミンキャラクターズ社所蔵
©Moomin Characters™

Info

「仙厓展」

会期：〔前期〕7月29日(水)～9月27日(日) 〔後期〕9月30日(水)～11月29日(日)

会場：1階 古美術企画展示室

言葉では伝えられない
本当に大切なことは

宮田…布袋さんが上を指さして、子どもたちに「あの月が落ちた誰にやろふかひ」と言っています。ところが月の姿は描かれていないので、見る人は「月はどこかな？」と戸惑ってしまいます。実は、仏教では月は悟りの象徴でもあります。布袋さんの言葉に導かれて見えない月を探すのは、お坊さんが悟りを求めて修行するのを簡易的に体験する行為と言えるかもしれません。

DJコブウシ…この絵もとても
カワイイですね！

宮田…もう1点ご紹介したいのが
《指月布袋図》(後期展示)です。

見えない月を探せ！

いると、ついついそんなことを考えてしまうことがあります。

宮田…仙厓が本格的に絵を描き始めたのは40代後半から。今でこそ「ゆるかわ」で知られていますが、最初はけっこう厳しい画風の絵を描いていた。ところが住職を引退して以降、どんどん親しみやすい画風になっていき、70代になると「厓画無法」と宣言するほどになります。

DJコブウシ…脱力した画風は、晩年のものなんですね。どうしてそんなに画風を変えたのでしょうか？

宮田…おそらく伝えることをやめようと思ったのがきっかけではないでしょうか。仙厓はとも真面目で修行に邁進した人。だからこそ、絵を描くことで、人びとに禅の教えを伝えようと腐心していました。でも修行を重ねた僧ならいざ知らず、まちの人たちには教えそのものはなかなか伝わらない。その中で、絵とおして、笑いや感動を共有す



仙厓義梵《指月布袋図》江戸時代 19世紀(後期展示)



仙厓義梵《犬図》江戸時代 19世紀(前期展示)

る体験を積み重ねることがより大切だと気が付いたのではないかと思います。

仙厓沼へようこそ！

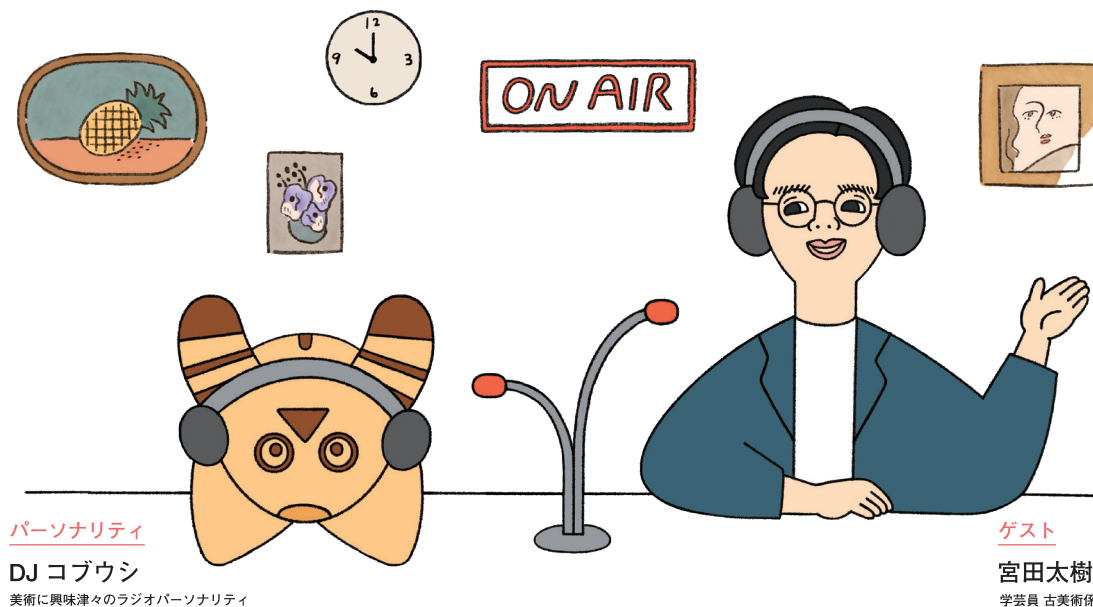
DJコブウシ…カワイイと深読みを行ったり来たりで、なんだか頭がグラグラしてきました。

宮田…私はそれを仙厓沼と呼んでいます(笑)。仙厓の絵はすごくシンプルだからこそ、見る側が自由にイメージを膨らませることが出来る。でも知識が増えるほどかえって意味に縛られて、自分の感覚を置き去りにしてしまう。スクラップアンドビルドを求め続ける禅の教えを体現したような絵でもあります。ただ、

みなさんこんにちは。「アートラジオ」の時間です。本コーナーでは、DJコブウシが、毎回ゲストとともに福岡市美術館で見られる展覧会や作品について語り合います。それではさっそく、本日のゲスト、宮田太樹さんにご登場いただきましょう。

Tune in!

アートラジオ



パーソナリティ

DJ コブウシ

美術に興味津々のラジオパーソナリティ

ゲスト

宮田太樹
学芸員 古美術係

EPISODE 2

今年もやります！みんな大好き「仙厓展」

福岡市美と仙厓さん

DJコブウシ…福岡市美術館では、ほぼ毎年「仙厓展」を行っていますよね？

宮田…当館では、200点を越える仙厓作品を所蔵しています。そのほとんどが福岡市にお住まいの方々から寄贈いただいたものです。仙厓が人気作家であることに加えて、地元のご寄贈者への感謝の気持ちもこめて毎年開催しています。

カワイイと思って見ていいの？

宮田…本展で紹介する《犬図》(前期展示)は、お腹を紐でくくられた犬を一筆描きのようなさりとした筆遣いで描いた作品です。少しうつむいた表情と「きゃふんきゃふん」という鳴き声がなんとも言えない、仙厓のカワイイ作品の代表選手です。

DJコブウシ…ところがあの絵には、深い意味があるという話も聞きます。

宮田…「犬にも仏性(仏になる素質)はあるのか」という問いを投げかけていると読み解くこともできるのです。禅宗に詳しい人がこの絵を見ると色々と意味を深読みしたくなるかもしれません。

DJコブウシ…なるほど…そう思うと寂しそうな犬の表情も何か意味深に見えてきました。

宮田…確かにそうですね。ですが、色々と深読みを誘う要素がある一方で、そうした途端に「いや待てよ」となるのがこの作品です。深読みしようとすると、ずるりと逃げていく感じがあります。仙厓はただのカワイイ犬を描いただけなのに、見る側が勝手に解釈しようとしているだけではないのか？この作品を見て

最終的に「ああ、やっぱりかわいいなあ」と素直に笑って眺めること。その軽やかさを忘れないことが、仙厓沼を楽しむ秘訣かもしれません。ぜひ会場でも、それぞれの楽しみ方で、仙厓の作品を味わってみてください。

夏休みこども美術館 2026「宇宙にいきたい」

会期：6月30日(火)～8月30日(日)

会場：2階 近現代美術室A・B



2つの展示室で異なる体験を

本展は2つの展示室で開催します。1つ目の展示室は、宇宙空間の静けさを感じられるような深い黒や青色の作品を中心に構成しています。もう1つの展示室は、うってかわって、カラフルで生命感あふれるような空間になるように作品を選びました。明るい色調の作品も多く、ダイナミックな宇宙を作品から感じてもらえたらと思います。



「宇宙」を感じる作品

今回展示する作品は宇宙を直接描いたものだけではありません。私自身が「宇宙を感じる」作品もたくさん選んでいます。私は「どこまでも続く空間」「別の世界に迷い込む」「自分がとても小さく感じる」などの感覚から、宇宙を感じることができると考えました。皆さんは、作品のどこに宇宙を感じるでしょうか。会場で自由に想像してみてください。



アメリカを舞台としたような背景の上を、頭に電球をつけた虎が立て続けにこちら側へ向かって飛んできています。さらには、その様子を虎の口の中から覗き見ているという状況がなんとも奇想天外です。この作品は、1965年にニューヨークを中心に起きた大停電を暗示しています。

タイガー立石《大停電'66》1966年



展示会のテーマはどのようにして生まれるのでしょうか。ここではそれを展示会の素となる「タネ」として紹介します。今回取り上げるのは、毎年夏に開催する「夏休みこども美術館」。今年のテーマは「宇宙」です。展示に込められたコンセプトについて、本展担当の教育普及専門員、^{かんじゆん}姜知潤さんにお話を伺いました。



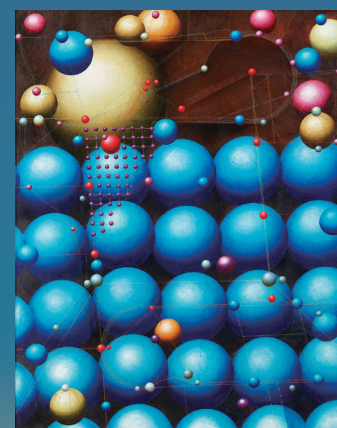
宇宙の視点から自分を見してみる

今年の夏休みこども美術館「宇宙にいきたい」は、私の個人的な経験から企画がスタートしています。仕事のことや人間関係のことなど、頭を悩ませることがあると、私は宇宙について考えます。そうすると途端にワクワクしてくるんです。辛いことがあっても、どこまでも広がる宇宙を想像できれば、少しでも気持ちが楽になるかもしれない。この展示会では、こどもたちが、広い宇宙の視点から、自分の気持ちを捉え直すきっかけになればと思います。



広くて大きいもの÷宇宙

展示する作品を選ぶときに、まずは直感的に「好き」な作品を選んでみました。すると、サイズが大きいのはもちろん、広大な世界観に引きこまれるような作品が多いことに気が付きました。狭くて小さな自分の世界を、広くて大きい世界へ解き放ちたいという気持ちがあったのかもしれませんが。広くて大きいもの÷宇宙と考えて、展示作品を選定しました。



ひしめき合っている青色の球体の数々。画面にひかれた線の上には様々な色をした球体が散らばっています。どこかの惑星、あるいは原子の集合体のようにも見えます。1970年代以降、オチは色とりどりの球体が浮かぶ抽象的な絵画「球体シリーズ」に到達し、生涯をかけて追求しました。

オチ・オサム《小宇宙日記》1980年

展示会の
タネ

Exhibition
Seeds

わたしの中にも外にも、
宇宙はある

7月	8月	9月
1 水 2 木 3 金 4 土 5 日 6 月 7 火 8 水 9 木 10 金 11 土 12 日 13 月 14 火 15 水 16 木 17 金 18 土 19 日 20 月 21 火 22 水 23 木 24 金 25 土 26 日 27 月 28 火 29 水 30 木 31 金	1 土 2 日 3 月 4 火 5 水 6 木 7 金 8 土 9 日 10 月 11 火 12 水 13 木 14 金 15 土 16 日 17 月 18 火 19 水 20 木 21 金 22 土 23 日 24 月 25 火 26 水 27 木 28 金 29 土 30 日 31 月	1 火 2 水 3 木 4 金 5 土 6 日 7 月 8 火 9 水 10 木 11 金 12 土 13 日 14 月 15 火 16 水 17 木 18 金 19 土 20 日 21 月 22 火 23 水 24 木 25 金 26 土 27 日 28 月 29 火 30 水
7月4日(土)～8月30日(日)・トーベとムーミン展 ―とっておきのものを探しに―		
6月30日(火)～・コレクションハイライト2026-27 (近現代美術室A)..... 主題も表現方法も拡張していった20世紀以降のアートの展開を、当館所蔵品を通してご紹介します		
6月30日(火)～8月30日(日)・夏休みこども美術館2026 宇宙にいきたい (近現代美術室A・B)		
7月4日(土)～・コレクションハイライト2026-27 (近現代美術室C)		
5月27日(水)～7月26日(日)・本多コレクション インドシナ半島の古陶磁 (古美術企画展示室)		
5月27日(水)～7月26日(日)・新収蔵品展 (古美術企画展示室)		
6月2日(火)～8月9日(日)・松永耳庵と仏教美術 (松永記念館室)		
通期・東光院のみほとけ (東光院仏教美術室)		
7月29日(水)～11月29日(日)・仙厓展 (古美術企画展示室)		
7月29日(水)～9月27日(日)・模倣と創造 (古美術企画展示室)..... 絵画、書、陶磁等のある作品と、その構図や形状等を参考または模倣して制作されたとみられる作品を並べて展示し、両者の相違に着目します。		
8月11日(火・祝)～10月19日(月)・秋の名品展 (松永記念館室)		
9月19日(土)～10月5日(月)・FaN Week特別展示コレクターズ展		
9月1日(火)～12月20日(日)・生誕150年 詩と絵の旅人―吉田博 (近現代美術室A)		
9月8日(火)～12月20日(日)・企画展×福岡現代作家ファイル2026 山内光枝展 潮ノ記 (近現代美術室B)		
9月30日(水)～11月29日(日)・肥前のやきもの ―田中丸コレクションを中心に― (古美術企画展示室)		

LECTURE

つきなみ講座

JULY-SEPTEMBER 2026

毎月1回、当館学芸員が、自分の仕事、展示、研究、関心ごとについて語ります。

※聴講無料、申し込み不要 ※先着順(30分前開場) ※定員等に変更になることがあります。詳細は美術館ホームページをご確認ください。

8月 夏休み子ども美術館2026「宇宙にいきたい」実施に至るまでのあれこれ

今年の夏休みこども美術館は宇宙がテーマです。展覧会開催に至るまでの苦労話や展覧会の見どころなどを新入学芸員の視点からざっくばらんにお話します。

日時：8月22日(土)15:00～16:00
会場：レクチャールーム(定員54名)
講師：姜知潤(教育普及専門員)



タイガー立石《大停電'66》1966年

7月 「コレクションハイライト2026-27」を楽しもう!

7月4日から一年通して開催する「コレクションハイライト2026-27」では、展示室の入口も室内も大胆に模様替え! 展覧会の作り方から、展示室のデザイン、作品の魅力について多角的に紹介します。

日時：7月18日(土)15:00～16:00
会場：レクチャールーム(定員54名)
講師：ラワンチャイクン寿子(近現代美術係長)



本展のポスター

9月 美術館と対話型鑑賞―30年の歩み

現在、多くの美術館で実施されている「対話型鑑賞」。日本に上陸してから約30年の歴史を福岡市美術館での事例を中心に振り返ります。

日時：9月19日(土)15:00～16:00
会場：レクチャールーム(定員54名)
講師：崎田明香(学芸員・教育普及係)



当館ボランティアによる対話型鑑賞の様子

ギャラリー A-F 2階

6月30日(火)～7月5日(日)
・第24回 九州二紀展(ギャラリーABCDEF)

7月7日(火)～7月12日(日)
・第100回記念 九州国展(ギャラリーABCD)
・永尾れなの世界展-kitos*-(ギャラリーE)
・シルクロードに咲く・共鳴・未来― 第2回 日中友好国際交流芸術展(ギャラリーF)

7月14日(火)～7月20日(月・祝)
・第54回 「日本の書展」九州展(ギャラリーABCDEF)

7月22日(水)～7月26日(日)
・令和8年度 福岡県高文連福岡地区大会(第40回 美術・工芸展)(ギャラリーABCDEF)

7月28日(火)～8月2日(日)
・izcco×リキニタバル「Drifting」(ギャラリーA)
・韓国画展(山君展)(ギャラリーBCD)
・わくわく曼荼羅アート展(ギャラリーE)
・グループTHEO展(ギャラリーF)

8月4日(火)～8月9日(日)
・西日本新聞書道之友展2026(ギャラリーABCDEF)

8月11日(火・祝)～8月16日(日)
・第6回 日本書道会展(ギャラリーA)
・2026 福岡韓国現代美術展(ギャラリーB)
・きままだな写真会(ギャラリーC)
・紫彩展(ギャラリーD)
・村上慶樹展「織りなすもの」～幾何学的理知と感覚的衝動の横断～(ギャラリーE)
・横内秀昭展(制作2022年～2026年)(ギャラリーF)

8月18日(火)～8月23日(日)
・曲がりの美学と聖書物語～くらもとめぐみソロ～(ギャラリーA)
・アートスタジオアライヴ鉛筆画教室100人展(ギャラリーBCD)
・上野真歩個展(ギャラリーE)
・福岡県独立書展(ギャラリーF)

8月25日(火)～8月30日(日)
・福岡市民が作る大アート展～誰もがアーティスト!～(ギャラリーABCDEF)

9月1日(火)～9月6日(日)
・soyFIELD絵画教室作品展(ギャラリーA)
・第2回 100人の書展～みんなつながれ～(ギャラリーBCD)
・第24回 さくら会水彩画教室展(ギャラリーE)
・野口正幸絵画教室生徒作品展(ギャラリーF)

9月8日(火)～9月13日(日)
・福岡読売写真クラブ 第16回 写真展(ギャラリーA)
・第41回 「日本の海洋画展」(ギャラリーBCD)
・第9回 OMSYSTEMズイコクラブ福岡支部写真展(ギャラリーE)
・写好会2026写真展示会(ギャラリーF)

9月15日(火)～9月23日(水)
・第31回 福岡市美術連盟展(ギャラリーABCDEF)

9月29日(火)～10月4日(日)
・第5回 写真倶楽部「絆」作品展(ギャラリーA)
・九州産業大学芸術学部出身者の美術展N 548 2026(ギャラリーBCD)
・異種四人展+α(ギャラリーE)
・奈古堂 木蓮の会 第23回作陶展(ギャラリーF)



グランドメゾン別府レジデンス



グランドメゾン大濠公園 THE TOWER



グランドメゾン大濠公園 THE CLASS



グランドメゾン福岡 The Central Luxe

記憶をつくる。記憶をつなぐ。積水ハウスの分譲マンショングランドメゾン



積水ハウス株式会社

お問い合わせ 0120-143-377

グランドメゾン

検索



福岡市美術館ミュージアムイベント協力企業・団体



大王製紙株式会社



一歩先を行く発想で、地域に真のゆたかさを。



福岡銀行



人につくす。街につくす。

セイワ世研



AZUSA SEKKEI



九州電力

ずっと先まで、明るくしたい。



ふくおか応援寄付

福岡市美術館が魅力的であり続けるためには、今後とも機会あるごとに美術品を収集することが不可欠であり、そのための資金として皆さまから「ふくおか応援寄付」（ふるさと納税による寄付）を募集しています。

わたすclub

会員になると、展覧会や映画などの料金がオトクに！もっと身近にアートのワクワクを感じてみませんか。福岡市文化芸術振興財団のホームページ（<http://www.ffac.or.jp/wa/>）またはミュージアムショップ店頭で入会受付中。

第5回 福岡アートアワード アーティスト募集！

福岡アートアワードとは、福岡市内で活動をおこない、今後の飛躍が期待できるアーティスト（美術作家）を対象に、作品の買い上げをもって贈賞する、という当館の事業です。贈賞によりアーティストを支援し、買い上げ作品は当館の所蔵品として展示活用します。

【募集開始】
2026年7月1日（水）～

たくさんのご応募を
お待ちしております。

応募情報はこちら



福岡市美術館

FUKUOKA ART MUSEUM

福岡市美術館
ウェブサイト

www.fukuoka-art-museum.jp



esplanade SUMMER 2026 | NO.224

福岡市美術館 季刊誌エスプラナード224号 発行日：2026年7月1日

【制作】福岡アートミュージアムパートナーズ株式会社（西日本新聞社）【編集】浅野佳子（nico edit）【デザイン】dictom design【印刷】株式会社西日本新聞プロダクト【発行】福岡市美術館

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6 TEL：092-714-6051（代表） FAX：092-714-6071
【開館時間】 9:30～17:30（7月～10月の金・土曜日は9:30～20:00）※入館は閉館の30分前まで。
【休館日】 月曜日、年末年始（12月28日～1月4日）※月曜日が祝日・振替休日の場合はその後の最初の平日